



夕刊

発行所 中日新聞社  
 名古屋市中区三の丸一丁目6番1号  
 〒460-8511 電話 052(201)8811

### 紙づつて

芸術家が作品を展覧会に出すように、科学者は研究成果を論文として発表する。とはいえ論文発表は、なかなか難しい。いくつかが関門を突破しなければならぬ。

第一関門は投稿先の科学誌編集者だ。編集者は博士号を持ち、研究者のトレーニングを受けている。ここで、掲載に値せずと判断されると「門前払い」をくらう。

第二関門を突破した論文は当該分野に精通した科学者二名に査読される。これが第二関門だ。論文を投稿する者にとって審査員は匿名なので、原則そひいきはない。論文の主張は妥当か。成果に十分な新規性があるか。これらの観点から審査される。

もり いく え 郁 恵

### 論文を通す

編集者は匿名審査員のコメントを受けて、論文の責任者にメールを送信していく。論文受理ならお祝いだ。問題は論文却下か、匿名審査員の批判に従って論文を修正せよと言われる場合である。

この第三関門は重要だ。編集者の裁断にどう対処するかが、論文の投稿者側に委ねられるからだ。とかく日本人科学者は「ダメですか」と引き下がると聞く。

自信作の論文に限るが、私なり、匿名審査員の誤解を解き、追加実験して論文の主張を強化する。さらに、編集者の啓蒙をもするだろう。

ある科学誌には年間二千五百報近い論文が投稿されるといふ。九割以上の論文が却下され、掲載されるのは一割に満たない。掲載にたどりつく論文の著者の多くは「粘り勝ち」したに違いない。(名古屋大学教授)

2011.5.20

2011.5.20 1面 No.18